

多飲水症の素因の有無を予測する方法

【技術分野】

生活・文化

【利用分野・適用製品】

オレキシン、ドーパミン作動性システム

【特許番号/公開番号】

特許第 4179451号

【ライセンス情報】

実施許諾 【可】 権利譲渡 【否】

【事業化情報】

実施実績 【無】 許諾実績 【無】

【目的】

多飲水症と関連するオレキシン伝達機構の遺伝子多型の解明、及び多飲水症と関連する多型の検出方法の提供。

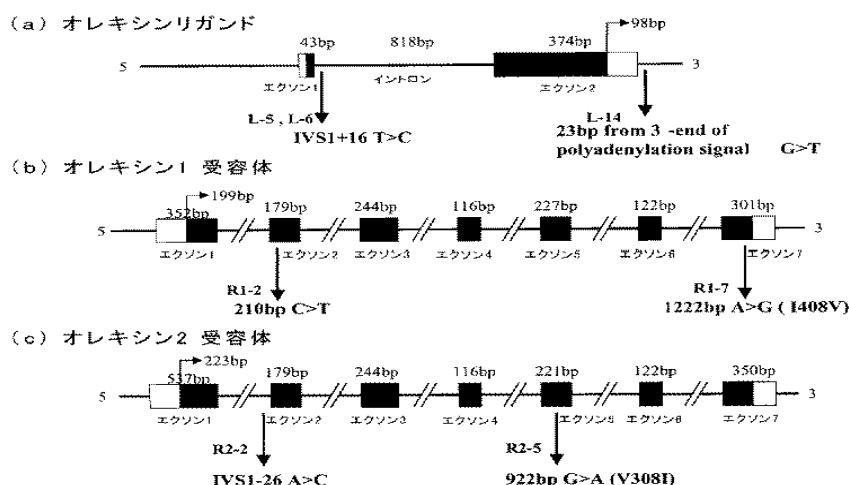
【効果】

本技術によれば、被験者が多飲水症の素因を有するか否かを分子遺伝学的な根拠に基づいて予測することができる。特に、精神分裂病の患者にとって、重篤な副作用である多飲水症の素因を有するか否かを診断することは、治療方法の選択等が可能となり副作用の防止に極めて有用である。

【技術概要】

この技術では、日本民族を起源とする精神分裂病患者である被験者から得た生物学的試料を分析し、オレキシン1受容体遺伝子の多型であって、配列番号1の1222番目の位置における塩基多型を決定することを特徴とする、被験者が多飲水症の素因を有するか否かを予測する。慢性の精神分裂病患者は多飲水症を発症しやすいため、本技術の方法によりその素因を有するか否かを予測することが有用である。ここで、オレキシン1受容体遺伝子は、配列番号1に示した塩基配列のヒトオレキシン1受容体cDNA、又はそのゲノムDNAである。又、オレキシン1受容体遺伝子の多型は、配列番号1の1222番目の位置から前後に500塩基以内の領域にある。

【特記事項・図面・その他】



ヒトオレキシンリガンド(a)、ヒトオレキシン1受容体(b)、及びヒトオレキシン2受容体(c)の各ゲノム遺伝子の構造とこれらの遺伝子におけるSNPsを模式的に表した図。